



古中だより『坂道』

(校長室だより)

HP 検索キーワード「古殿中 古殿町教育ポータル」
Tel 0247-53-3135 Fax 0247-53-3136

令和元年度 第10号

10月18日 発行

古殿町立古殿中学校
校長 相樂 正弘

～「玲瓏」と「美風」ということ～

この度の台風19号の発生に伴い、県内外で甚大な被害が発生いたしました。古殿町内でも土砂崩れや河川の氾濫等により多くの被害が発生いたしました。被害を被られました方々に対し、お見舞いを申し上げます。

さて、古中自慢の「玲瓏祭」を迎えました。「玲瓏祭」というネーミングからは、これまでの先輩達の並々ならぬ誇りや思いが伝わってくるため、その起源を調べてみました。資料には、平成13年度に「玲瓏祭」という名称がつけられたという記録が残っていました。「玲瓏」は「透き通るように美しく輝く様子。金属や玉が触れ合って、きれいな澄んだ音で鳴る様子」を表す言葉とのこと。まさに「さわやかさ」「ひたむきさ」「いさぎよさ」をこの言葉に託した当時の古中生の思いを感じることができます。今年の8月29日、この「玲瓏」に似た言葉を「小さな親切」実行章の報道に関連した新聞のコラム「編集日記」の中に見ることができました。そこには、次のように書かれていました。『土地の良い習慣を「美風」と表現することがある。気象現象としての風を、社会や人の様子を表す意味で使う用語は「風格」「風土」など他にもある。分かりやすいところでは「世間の風」などと例えるところもある。ある漢字研究家は、古代の風の字形が鳥の形をしていることに注目した。風は鳥の姿をした神の使いで、神意を人々に伝えることで土地の特色が生まれていたのではないか。だから、風には習慣などを表す意味があると解釈する。一部省略。古殿中学校の校章には、町の木であるスギがデザインされている。地域の将来を担っていく若杉たちは、さわやかな「美風」に生まれまっすぐに伸びている。』

「玲瓏」には「美風」と重なるものが多いような気がします。

【鑑賞時のお願い】

生徒達は、躍動する姿で保護者や地域の方々に感謝の気持ちを届けようと練習を重ねてきました。

つきましては、発表上の妨げとなりますので、携帯電話やスマートフォンでの通話はもちろんですが、**ゲーム等を行わないよう、ご協力をお願いいたします。**お子さんについても、ゲームをしたり走り回らないよう、ご指導のほどお願い申し上げます。



あわせて、撮影された写真や動画は、**無断でSNSやYouTube等に掲載・投稿されませんよう、**よろしくごお願い申し上げます

～がんばれ！県新人大会～

延期となった競技もありましたが、10月の3連休中に2種目の県南新人大大会が実施されました。部員が7名のソフトボール部は、卓球部から2名、剣道部から2名の応援を受け、11名で出場することができました。ありがたいですね。会場には多くの保護者の方が応援に駆けつけ、一丸となって声援を送ってくださいました。生徒達にとっても大きな励みになりました。試合の結果、2つの団体が県大会への出場権を獲得しました。新人大大会に参加した皆さん、ご苦労様でした。そして、これからも頑張ってください。

○ソフトボール競技 **優勝** 県大会出場
○剣道競技 女子団体 **第3位** 県大会出場



ソフトボール競技 優勝



剣道競技 女子団体第3位

【ふくしま駅伝競走大会に向けて】

11月17日(日)に開催予定の第31回市町村対抗駅伝競走大会のため、下記の生徒が古殿町民に元気や勇気を届けようと、夏休みからこれまで長期間にわたる練習を行っています。今後も週1～2回、17:30～19:00の時間帯に「町民グラウンド」や「やぶさめアリーナ」を使って練習が行われます。

【参加生徒】

瀬谷光瑠君(3-1)、大楽泰弘君(3-1)
矢吹元輝君(3-1)、松本碧斗君(3-2)
矢吹蒼空君(3-2)、吉田空翔君(3-2)
小濱一冨君(2-1)、有賀康成君(2-2)
矢内優之介君(2-2)、佐川雅泉君(1-2)
矢吹美佳さん(3-1)、大竹真生さん(3-2)
大竹音々さん(2-1)

男子10名 女子3名 計13名

【中学校からの指導者】

吉田絢也先生、鈴木穂乃花先生



佐藤弘信さんよりの激励の言葉(10/8)